

2020 年度事業 進捗報告書（資金分配団体）

- 提出日 : 2022年 10月 28日
- 事業名 : 中核的フードバンクによる地域包括支援体制
- 資金分配団体 : 公益財団法人パブリックリソース財団

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の 達成状況 (中間評価) 2022年8月	現在の指標の 達成状況 (年度末報告) 2022年3月	進捗状況*
①中核的フードバンクを中心としたコンソーシアムの立ち上げ	担当者を配置した中核的フードバンクの数	5 (実行団体数)	2022年3月	5	達成	2
	目指すべきコンソーシアムが立ち上がった団体の数	5 (事務局として機能している、定期的な会議が持たれている、コンソーシアムに関わる企業やステークホルダーが定義されている、など)	2024年3月	ちば以外の4団体のコンソーシアムは、 ・事務局が設置されているものの、事務局としての機能強化はこれから。 ・定期的な会議を持っている。 ・関わる企業やステークホルダーの定義はこれからとなっている。	ちば以外の4の団体はコンソーシアムを立ち上げている段階	2
	コンソーシアムの構成団体数	TAMA (0→10)、 かながわ (215→250)、	2024年3月	TAMA (12)、 かながわ (298)、	TAMA (10)、 かながわ (224)、	2

		ちば (100→130)、 西埼玉 (20→30)、 山梨 (15→30)		ちば (226)、 西埼玉 (40)、 山梨 (212)	ちば (158)、 西埼玉 (40)、 山梨 (16)	
②食品配布先の 拡大	食品配布先団体数の増 加	各実行団体の食品配布先団 体数の増加数	2024 年 3 月	最終評価時に、事業前後の増加数をみ る	最終評価時に、事業 前後の増加数をみる	4
	食品調達量の増加	TAMA (80t→105t)、 かながわ (253t→300t)、 ちば (0t→30t)、 西埼玉 (18t→20t)、 山梨 (143t→400t)	2024 年 3 月	TAMA (100t)、 かながわ (287t)、 ちば (79t)、 西埼玉 (20t)、 山梨 (177t)	TAMA (75t)、 かながわ (287t)、 ちば (78.4t)、 西埼玉 (20t)、 山梨 (144t)	
③行政との連携 の拡大	行政につないだ件数の 増加率 *連携する行政・社協 の数に読み換える	TAMA (0 市→7 市)、 かながわ (53 団体→60 団 体)、 ちば (50 団体→70 団体)、 西埼玉 (設定なし)、 山梨 (11 市町村・14 社協→ 20 市町村、20 社協)	2024 年 3 月	TAMA (9 市)、 かながわ (60 団体)、 ちば (60)、 西埼玉 (適切な指標を検討中)、 山梨 (11 市町村、13 社協)	TAMA (8 市)、 かながわ (58 団体)、 ちば (55)、 西埼玉 (適切な指標 を検討中)、 山梨 (11 市町村、13 社協)	2
④食品・外食関連 企業 (食品メー カー、卸、外食産 業など) 食品廃 棄量の減少	フードバンクに寄贈し た食品の量の約 90% (フードバンクかなが わの実績値をモデルと する)	実行団体のフードドライブ 品を除く、企業等からの寄 贈食品量を確認後、目標値 を立てる。	2024 年 3 月	最終評価時に、事業前後の増加数をみ る	最終評価時に、事業 前後の増加数をみ る	2

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況 (中間評価)	現在の指標の達成状況 (年度末報告)	進捗状況*
①コンソーシアム形成を支援するファシリテーターの派遣	オンラインミーティングの回数	2~3回/月・箇所	2024年3月	1実行団体あたり2回のオンラインミーティングを実施	1実行団体あたり2回のオンラインミーティングを実施	2
	現地訪問の回数	1~2回/年・箇所	2024年3月	全実行団体へ2回訪問実施	全実行団体へ1回訪問実施	2
②コンソーシアムの情報共有・連携強化	コンソーシアム内の定期会合の回数	2回/年	2024年3月	ちば以外の4/5の団体は2回/年以上の会合を開催している	ちば以外の4/5の団体は2回/年以上の会合を開催している	2
	実行団体間の定期会合の回数	1回/年	2024年3月	2021年度は情報交換会を1回開催	2021年度は情報交換会を1回開催	2
	先進事例の視察回数	1~2団体	2023年3月	2年目実施する計画	2年目実施する計画	2
③食品調達先企業の獲得	食品調達先企業の数	TAMA (25→60)、 かながわ (155→200)、 ちば (設定なし)、 西埼玉 (設定なし)、 山梨 (設定なし)	2024年3月	TAMA (55)、 かながわ (237)、 ちば・西埼玉・山梨 (適切な指標について検討中)	TAMA (同意書でいける済み企業数に読み替え)、 かながわ (219)、 ちば・西埼玉・山梨 (適切な指標について検討中)	1
④資金調達先企業の獲得	資金調達先企業の数	かながわ (167→220)、 西埼玉 (1→10)、	2024年3月	かながわ (210)、 西埼玉 (2)、	かながわ (204)、 西埼玉 (1)、	2

		TAMA（設定なし）、 ちば（設定なし）、 山梨（設定なし）		山梨・TAMA・ちば（適切な指標について検討中）	山梨・TAMA・ちば（適切な指標について検討中）	
	資金調達先企業の社員 募金寄付者数	設定なし	2024 年 3 月	2 年目実施する計画	2 年目実施する計画	3
⑤コンソーシアムの成果報告	他県の中核的フードバンクとなりえる団体の出席数	成果報告の企画時に設定	2024 年 3 月	3 年目実施する計画	3 年目実施する計画	2
	県内のコンソーシアム構成候補団体の出席数	成果報告の企画時に設定	2024 年 3 月	3 年目実施する計画	3 年目実施する計画	2

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
・ 毎月の定例打ち合わせはオンラインにて実施（現地訪問は2回/団体程度） ・ 各実行団体主催の報告会等イベント開催も、原則オンラインで開催

6. 実行団体の進捗に関する報告

【フードバンク TAMA】

・全体観としては、事業開始時に比べ、食品の取扱量が大幅に増加しており、当初目標としていた取扱量、合意書取り交わし済の企業数共にすでに大幅に達成している状況。

・上記を可能にした要因としては、①本事業採択に伴う専従職員の雇用②新規倉庫の貸与の実現③②による大口寄贈が受け入れ可能になったことによる、企業のリピート寄贈の増加 等があると考えられる。

・一方で、目標値については多摩地域全体の貧困世帯数等をベースに、改めて設定しなおすことも伴走支援の一環として行っている。また、食品を配布する先についても、どこにどのようなニーズがあるのかという調査を、アンケートを通じて行うことで把握につとめることに着手し始めた。

・ネットワーク構築についてはやや動きが鈍い印象。ネットワーク加入予定の社会福祉協議会等とは対話を重ねており、一つのネットワークとして法人化等の動きは難しいが、フードバンク TAMA を中心とした各地域での食支援という部分ではそれぞれのネットワーク団体との連携は強くなってきており、当初の想定の間からは変化しているが、活動の実態も十分持った、ゆるやかなネットワークとして構築されつつあることが見受けられる。残りの事業期間では、ネットワーク内での合意事項等の取り決め、事業終了後の取り組みの方向性や、ネットワークをどこが主導していくか等の、継続した連携が可能となるような体制構築が必要と考えられる。

・総じて、フードバンク TAMA としての活動自体は非常に大きく拡大しており、次のステップとして計画的な団体の運営とそのための基盤体制の強化、ネットワーク継続のための連携体制の構築といった点が必要となってきた段階といえる。この点については伴走支援を通じて団体内での認識の整理、計画の策定支援を行っていく。手を付ける必要がある部分は複数あるため、優先順位を設定する段階から、伴走支援の一環として関わっていく予定である。

【フードバンクかながわ】

・団体設立時から直接支援をせず、地域の食支援団体・機関へ供給することに特化して事業を行っていた団体で実務能力が高く、非常に順調に事業は推移している。

・取り扱う食品に冷凍食品を加えるというチャレンジングな取り組みも、食材調達と配達網構築等着々と準備は進んでいる。

・各生協との強力なパートナーシップが食品調達・物流・専門知識と経験のある人材採用に活かされており、資金調達もトップ営業を駆使して順調に推移している。

・他地域へのモデルとなるよう、汎用的な仕組みづくりの観点でも伴走していきたい。

・当初設定した目標（アウトプット、アウトカム）は早々に達成している項目もあり、環境整備（食材保管場所の追加確保、冷凍食品のデリバリーの仕組み整備等）の見込みがたてば、さらに目標値を高い設定ができると考える。

【フードバンクちば】

- ・ようやく予定していた人材採用もでき、既存事務局スタッフ内の役割分担が整理され、日々業務に追われるだけの状況からは脱しつつある。
- ・休眠預金を活用して実現を目標としている「システム構築で作業効率を上げる」「千葉県内3箇所のサテライト拠点づくり」「プラットフォームづくり」については、「システム構築で作業効率を上げる」は進捗が遅れ気味。FB調布が使っているExcelベースのシステムをシステム会社へスマホやタブレットで運用できるようシステム開発を依頼して、2022年10月にテスト版が納品される予定。
- ・「千葉県内3箇所のサテライト拠点づくり」は1箇所は新設して稼働しており、他の2箇所（県東部、県南部）については、連携先候補の団体と協議がスタートする状況。「プラットフォームづくり」は損保ジャパンがアドバイザーとなって打ち合わせ等はしているようだが、こちらはまだ目指している具体像が不明瞭でまだ実態がない状況。
- ・直接的な支援も行っている団体で、コロナ禍で緊急支援に迫られ目の前の活動に翻弄されてしまった。

【フードバンクネット西埼玉】

- ・代表が遠隔地に住んでいたが、7月に近隣地域に引っ越してきて、団体活動へ本格的に関われる環境が整ってきた。それにより、これまでほとんどできていなかった対外渉外活動が9月から本格的に実行されていく予定。
- ・元々ボランティア主導で活動をしていた団体なので事務局機能はまだ脆弱であるが、事務局長も新たに設置し、組織体制を徐々に整えつつある。
- ・とはいえ、組織の基盤強化がやはり急務である。（労務管理、資金調達、企業開拓等全般）
- ・西埼玉地区の地元のフードバンク等食支援団体の設立支援や各種サポートを長年やってきていたので、西埼玉地域のネットワークはそれなりに組成されている。ただし、ネットワーク全体としての調達・供給量の把握はできておらず、ネットワーク全体でどのようなインパクトを生み出しているのか可視化できていない。

【フードバンク山梨】

- ・休眠預金事業の中での事業計画は概ね計画通り進捗している。ただし、本事業にも大きくかかわってくる自主事業の「山梨フードバンクセンターの設立」については、当初計画より建築申請・工期の兼ね合いで遅延している。2022年12月には本格的に稼働の目途はたっているため、実質的な活動、取扱量の増加等についてはこれ以降顕著にみられることが想定される。
- ・山梨フードバンクネットワークとしての活動・連携体制の構築は、地域フードバンクの活動が徐々に活発化している様子から、順調に進められていることがうかがえる。特に、それぞれの地域の食支援の拠点として各地域フードバンクが積極的に活動を行うため、ソフト面・ハード面含めた支

援を提供している。地域フードバンクの中には、NPOとして法人化する団体、地域の食品を自発的に集め、支援を行う団体など、フードバンク山梨に依存した形でない支援が徐々に広がってきている。今後はさらに地域フードバンクを継続して支援するほか、新たに地域フードバンクとなる団体の募集・声掛け、支援にも力を入れていく予定である。

・一方、団体としては、中核的フードバンクとしてのありかたと、これまでの個人支援を中心に行ってきた部分との間で、まだ団体内での整理をやりつくしたとは言えない状況にある。本事業の折り返し地点を迎え、後半期間の始めとして、まずは団体内での認識の共有化、ミッション・ビジョンの整理を行うことを計画している。

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

2.広報制作物等

3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（資金分配団体）

評価実施体制

内部／ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	文献調査、インタビュー、フォーカス ディスカッション、分析、事前評価報 告	松本海南	公益財団法人パブリックリソース財団・ チーフプログラムオフィサー
内部	文献調査、インタビュー、フォーカス ディスカッション、分析、資料作成、記 録作成	鳴原佳奈	公益財団法人パブリックリソース財団・ プログラムオフィサー
内部	文献調査、インタビュー、フォーカス ディスカッション、分析、資料作成、記 録作成	鎌田淳	公益財団法人パブリックリソース財団・ プログラムオフィサー
外部	事業設計、伴走支援アセスメント構築・ 委託、実行団体事業継続審査・コメン ト	米山広明	一般社団法人全国フードバンク推進協 議会 代表理事
外部	実行団体事業継続審査・コメント	三島理恵	NPO 法人全国こども食堂支援センター・ むすびえ マネージャー
外部	実行団体事業継続審査(審査委員長)・ コメント	渡辺 元	公益財団法人助成財団センター 理事
外部	実行団体事業継続審査・コメント	徳永洋子	ファンドレイジング・ラボ 代表

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

【資金支援】

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとらえて把握している変化・改善状況
中核的フードバンクとコンソーシアムが活動する地域において、食品を必要とする世帯に対し、継続的に食品の配布ができるようになる。	コンソーシアム団体の食品配布量および食品配布世帯数	事前より増加する	2024年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・多少の差はあれ、継続的にネットワークに加盟している団体を通じて食品の配布ができる仕組みが構築できている。 ・実行団体ごとにこの項目での目標設定はしていないが、長引くコロナ禍、ウクライナからの避難民の増加等もあり、食料支援を希望する受益者は増加しており、それに伴い配布量も比例して著しく増加している。
中核的フードバンクの設備やデータシステムが充実することを通じて、食品保管、配送システムが拡充する。	食品保管力(物理的な保管量の拡大、ネットワーク団体が扱える食材の種類が増えるなど)、物流機能の改善・向上	実行団体ごとに事前より改善・向上する	2024年3月	<ul style="list-style-type: none"> (山梨) センターを建設中(2022年末に竣工予定)。 (かながわ) 冷凍食品を取り扱うために冷凍車を確保、冷凍食品を企業から受益者へ届ける物流網整備を進めている。 (TAMA) 倉庫を新規に借りたため、一度に寄贈を受けられる食品量が大幅に増加。食品以外の生活支援品についても取り扱いが可能となっている。 (西埼玉) 新規倉庫を確保するもコストがかさむので、新しい倉庫を探している。食品配達用の車をリースで確保(ただし、コスト見合いで中古の車を購入することを検討中)。 (ちば) 食品の受入とその在庫管理を主目的としたシステムを開発中。

<p>コンソーシアムの活動が活発化し、取扱い食品量が増加することにより、食品ロスが削減される</p>	<p>廃棄を免れた食品量</p>	<p>各実行団体が企業・団体から調達した食品量の約90%を、廃棄する予定の食品と設定する（フードバンクかながわの実績値をモデルとする）</p>	<p>2024年3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フードバンクかながわでは、検品時の検査において廃棄していた冷凍食品の寄贈を受けることになった。 ・損害保険会社との協定により、物流トラックの事故により廃棄せざるを得なかった食品の寄贈を受けることができる仕組みが出来た。 ・パンメーカーが定常的に捨てていた廃棄食品の寄贈を受けることになった。 ・外食産業と賞味期限間近のデザート等の寄贈を受ける協定を締結した。 ・療養者用に提供していた食材・食品の寄贈を受ける仕組みが出来た。
--	------------------	---	----------------	---

【非資金的支援】

指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
<p>対象地域において、コンソーシアムメンバーの話し合いや伴走支援を通じて、中核的フードバンクのビジョンが固まり、コンソーシアムが成立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上がる中核的フードバンクの数 ・成立したコンソーシアムの数 	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年3月 ・2024年3月 	<ul style="list-style-type: none"> ・中核的フードバンクは5つ設立されたといえる状況 ・実行団体5つのエリアごとに食品寄贈企業や食支援団体等で組成されるコンソーシアム(ネットワーク)が立ち上がっている
<p>担当人材を配置してファンドレイジング等に積極的に取り組むことにより、中核的フードバンクの財政基盤が強化される。</p>	<p>中核的フードバンクの組織運営を支援する寄付者数</p>	<p>2024年3月</p>	<p>山梨、かながわは賛助会員企業等、資金的支援をする企業が徐々に増えている。TAMAは補助金、助成金を積極的に申請して資金調達に努めている。ちば、西埼玉は計画通りに寄付者(企業、個人ともに)が増加していない。伴走支援の一環として、弊財団のオンライン寄付システムへ各団体が登録することにより、定期的な資金調達の一助とする。(2022年度中運用開始)</p>

担当人材を置いて賛同企業の開拓やフードドライブに取り組むことを通じ、中核的フードバンクの食品調達力が向上する。	中核的フードバンクの食品調達量	2024年3月	組織基盤の整備状況により、担当人材を置けているかはまちまちであるが、本助成金を通じて初めて担当人材を雇用できたという団体もあり、これが食品調達量の増加にもつながっている面がある。 またフードロスの問題が広く知れるにつれ、フードドライブに参加する企業や個人が増えており、それによる食品調達の量・件数も増えている。
企業開拓によって、フードバンクに賛同・寄贈する企業やサポーターが増加して、地域包括システムに対する支持基盤ができる。	寄贈企業数	2024年3月	徐々にではあるが、食料の支援ということについて、地域で各団体や企業、行政との連携により地域を包括した支援システムが整備されつつある。 かながわでは冷凍食品を提供食品に加えるという先駆的な取り組みに挑んでおり、先進事例として公開していきたい。
各実行団体に対して実施しているアセスメントにより、中核的フードバンクに求められるチェック項目に対する優先度が明確になる。同時に、組織基盤強化に繋がる。	今後の取り組み優先度に対する達成度が Aは100%、Bは80%以上、Cは60%以上	2024年3月	<ul style="list-style-type: none"> 各実行団体において、中核的フードバンクに求められるチェックに対する優先度および今後の取組み優先度が明確になった。 その明確になった優先度に従い、伴走支援を継続して実施している。 事後評価の際に、実行団体ごとの達成度合いを鑑みて、その後の活動計画立案に活かす。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>目標とするアウトカムを既に達成している実行団体もあり、全体的に見ると助成終了時の目標は達成の見込みである。</p> <p>目標を既に達成している実行団体は目標の上方修正を図っていき、更なるアウトカムを生み出すことを狙っていきたい。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	<ul style="list-style-type: none"> 活動は計画通りに実施されているか 実行団体による活動は計画通りに実施されているか 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね計画通りに実施している 実行団体間の進捗の差はあるが、概ね計画通りに実施されている 	<p>計画し実行している活動は、受益者ニーズに沿った活動であることを再認識。</p> <p>計画より遅れ気味な活動においては、その阻害要因を特定し解決を図ることで、計画通りの進捗に戻していくこと、あるいは計画そのものの現時点での妥当性についても検討する。</p>

<p>実施をと おした活動の 改善、 知見の共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を通して新たなアイデアが生まれたか ・資金分配団体は実行団体からの先進的な活動を学ぶとともにその知見を広く共有できるように整理・蓄積しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関連団体をコーディネートする人材よりも、評価やファンドレイジングといった事業運営に関わる専門家のニーズが高いことがわかった ・実行団体の活動報告会等で先進的な取り組みを公開する機会を設けている 	<p>実行団体間の情報共有といった機会を2022年度も設けることで、全体のブラッシュアップにつなげていきたい。</p> <p>各地域の生協はフードバンク事業の強力なパートナーになり得るのではと手応えを感じている。(食材提供、物流)</p> <p>2022年度からフードバンク事業の専門家による伴走支援が本格的に始まったため、各実行団体でも適切な目標値の設定、行動の優先順位づけ、必要な支援等問題解決のための取り組みが進んでいる。各実行団体の事例を集積していき共有をしていくことが重要と考える。</p> <p>毎月のオンラインミーティングにおいて、各実行団体の取り組み方や先進的な取り組みは、POから積極的に共有し、実行団体同士が連絡を取り合い、知見の共有がしやすいようなきっかけを提供している。</p> <p>また、冷凍食品については検品等で大量の廃棄がされている実態を知り、これらをフードバンクで取り扱える大きな機会であると捉えている。</p>
<p>組織基盤強 化・環境整 備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な判断として、実行団体の組織基盤はどの側面でどの程度強化されたか。それは何のためによるものと考えられるか ・包括的支援事業の在り方に関する知見や経験を蓄積する体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局機能がほとんど持たない団体においては、人材を雇用し、組織整備に取り掛かった実行団体もある。ただし、助成期間後の自立した運営に向けた組織基盤強化にはまだ課題が多い ・毎月の月次ミーティングや、フードバンク事業専門家による各実行団体への個別伴走支援により、実行 	<p>助成期間終了後に自立して地域の中核的フードバンク事業を営んでいけるか、まだ多くの実行団体ではその点の組織基盤強化に課題がある。継続して専従職員を雇用し続けるには年間どれだけの資金調達が必要で、そのための施策をどうとっていくかということは、計画的に事業の3年目では着手する必要があると感じている。</p> <p>各実行団体の事業運営、組織運営を整備、強化を図っていくにあたり、一般社団法人全国フードバンク推進協議会の代表理事である米山氏に伴走支援者として入ってもらっている。</p> <p>その前段階として、各実行団体が自らの現状を把握し、課題を抽出するセルフアセスメントを実施し、その後に伴走支援者の現地訪問によるアセスメントを実施し、ディスカッションを重ねて個別に実行団体ごとの伴走支援計画を立案し、2022年度から本格的に支援に入ってもらっている。</p> <p>実行団体が自ら課題を抽出し、その上で議論を重ねて納得した支援計画に基づいた</p>

	を整備しているか	団体の知見や経験を集積していく	伴走支援を受けるスタイルは、実行団体としても受け入れやすい支援だと考える。
--	----------	-----------------	---------------------------------------

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・ネットワーク団体の中で任意団体から NPO 法人の法人格取得に至ったケースあり。
- ・山梨において、ネットワーク団体としての活動報告会を開催し、食支援団体のみならず、行政や企業も参加し注目を受けることとなった。
- ・実行団体によっては評価の専門家がアドバイザーとして関わってもらい、評価の観点で事業を見直したり、目指す方向性を再確認する機会を持つことができた。
- ・実行団体間の情報交換の場を設けたことで、他の実行団体の良いところを学ぶ機会を提供することができた。(一部、団体訪問も実施されていた)
- ・専門家による伴走支援を通じて、団体内での優先課題が表面化し、その整理が行われた。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

- ・フードドライブの広がりや、一般家庭からの食料調達量が増えた（フードロスの社会問題の認知の広がり）
- ・コロナ禍で活動を変更したり休止したりした食支援団体（特に子ども食堂）が増えた。それにより食に困った方への支援をする事業者に変動があり、逆に支援の円滑性が損なわれた場所や時期もあったと思われる。



④ 事業計画（資金分配団体）の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある <input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する 	<p>各々多かれ少なかれ課題はあるが、フードバンク専門家の伴走支援を中心に、実行団体ごとの事業計画を適切に改善し、実行していくことで、各々の事業の改善が図られると考える。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

- ・フードバンク専門家による伴走支援の加速化、優先課題への取り組み
- ・組織基盤強化（特にファンドレイジングに関する専門家派遣等）
- ・協力企業の開拓（食品、寄付）
- ・各実行団体の様々な活動を、モデル事業として全国の行政やフードバンク事業者、食品メーカー等の民間企業や経済界等に情報発信（シンポジウム等）することで、実行団体以外の地域にも地域事情に合った中核的フードバンクが独自に立ち上がっていくことを推進していきたい
- ・実行団体間での情報交流や学びの機会となるような場を設ける

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）